令和７年 10 月 30 日発行

『食の都庄内』旬だより

【庄内柿】





１　庄内の秋の風物詩「庄内柿」

・10 月に入ると庄内の秋を彩る味覚の一つ、庄内柿の収穫が始まります。
・代表的な品種は、渋柿の「平核無（ひらたねなし）」で庄内柿全体の約８割を占めています。
・現在、柿の結果樹面積は、県全体で 679ha（令和６年産都道府県別の結果樹面積、農林水産省）となっており、その８割程度を庄内地域が占めています。鶴岡市羽黒地域や櫛引地域、遊佐町杉沢地区などが主な産地です。
・庄内柿は、共同選果施設で、主に炭酸ガスを用いて３～５日程度かけて脱渋した後、選別、出荷されます。

２　「庄内柿」の高付加価値化の取組み

（１）大玉で高品質な果実生産

・庄内柿のブランド力向上対策として、従来よりも１本の樹に成らせる果実数を少なくすることでＬ級（190g）以上の大玉・高品質生産に取り組んでいます。

（２）干し柿

・干し柿は乾燥時間の長さにより、ころ柿とあんぽ柿があります。庄内では、ころ柿を中心に生産してきましたが、近年、消費者ニーズに対応して、ころ柿よりもしっとりと柔らかい食感のあんぽ柿生産が増えています。

３　購入できるところ

・庄内柿は 10 月中旬～11 月下旬、干し柿は 11 月末～３月に、庄内の農産物直売所やスーパー等で販売されます。